

平成27年度（第2回定例）二宮町社会教育委員会議 会議録

日 時：平成27年10月7日（水）13時30分～15時20分

場 所：二宮町生涯学習センターラディアン ミーティングルーム1

出席者：（社会教育委員） 杉崎實委員長、桐岡眞澄副委員長、井堤悦子委員、
江見千秋委員、橘川昭夫委員、久保田秀実委員、野村幸雄委員、
野谷浩司委員

（事務局） 府川教育長、宮川教育次長、三浦生涯学習課長

小嶋生涯学習班長、武井生涯スポーツ班長、清宮主任主事

傍聴者なし

資料

- ・会議次第
- ・平成27年度社会教育事業報告（平成27年5月1日～9月16日）
- ・社会教育関係団体の補助金について
- ・平成27年度放課後子ども教室事業報告（6月～9月実施分）
- ・平成27年第3回議会定例会（教育関係審議状況）について
- ・平成27年9月議会定例会決算審査特別委員会審議状況について
- ・平成28年度予算編成について
- ・平成28年度重点施策（事業）について

1 開 会

2 教育長あいさつ

3 委員長あいさつ

4 議 題

（1）平成27年度社会教育事業報告（平成27年5月1日～9月16日）

※事務局より資料に基づいて説明。

（委 員）子ども会指導者、青少年指導員合同研修会について、どのような内容か。また、参加者を増やすためにどのような工夫をしたのか。

（事務局）子どもたちが自ら事業を企画して、作り上げる際の指導方法について考えるワークショップである。参加を促すために、青少年指導員へ直接声を掛ける他、子ども会を通じて呼び掛けを行った。

（委 員）指導者を対象にした研修会ということか。

（事務局）そうである。11月3日の子ども会祭りにおいて、子どものブースを設けるため、県立青少年センターの講師を招き、指導者向け研修を行った。

- (委員) 子ども会と青少年指導員を統一した組織ができれば良いと思う。
- (委員長) 子どもが企画できるような促し方ということか。
- (事務局) そうである。
- (委員) 環境浄化パトロールはどのようなコースを回るのか。
- (事務局) 富士見が丘や緑が丘の辺りを回る北側のコースと、梅沢や袖ヶ浦の海岸から山西の辺りを回るコースとがある。いかがわしいチラシ等はなく、子どもがいれば声掛けをしている程度である。また、不動産関係の看板を撤去することがある。
- (委員) 不動産関係の看板は勝手に撤去できるのか。
- (事務局) 看板の撤去は道路と関係があるので、都市整備課と県の職員も同パトロールに参加している。そのため、撤去可能である。
- (委員長) 落書きはあるか。
- (事務局) そのような報告はあまりない。
- (委員) アクティブクラブで、落書きを消す活動があるが、今は中村川の辺りに1か所ある程度。
- (委員) 何人くらいで回るのか。
- (事務局) 10人程度を2班に分けて、県や町の職員と一緒に回る。
- (委員) 環境浄化パトロールの他にも、パトロールがいくつかあるが、何が違うのか。
- (事務局) まず、実施する時間が異なる。環境浄化パトロールは15時から、愛のパトロールは17時からである。メンバーは環境浄化パトロールは環境浄化推進委員、愛のパトロールは環境浄化推進委員と民生児童委員、PTAや先生たちも参加する。愛のパトロールは子どもへの声掛けが主である。
- (委員) どのような効果があったか。
- (事務局) 子どもがほとんどいないが、自転車2人乗りの子どもに声掛けを行った程度である。夜間パトロールも行っているがコンビニの前にもいない。
- (教育長) 小中学生が落ち着いているということもあるが、子どもたちの過ごし方が、塾か家で遊ぶかで、外から見えにくい状況である。
- (委員) 大阪府で子どもが深夜に歩き回り、殺害される事件があった。
夜、買い物に行った際、近くに親がいない子どもがいて驚くことがある。
本来、保護者自身で子どもを管理するべきだが、深夜のパトロールもあると安心である。
- (委員) 平日、午後8時から9時の間に歩いているが、子どもを見かけない。
以前は高校生が集まる姿があったが、子どもたちの行動が変わってきたのか。
- (委員長) 別の時間にパトロールをした方が良いのか。
- (事務局) 夜間パトロールも行っている。
- (教育長) パトロールは子どもが夜間出歩かないための抑止力になる。ただ、スマートフォンで子ども同士が連絡を取り合い、友達の家に行く等したら、外から見えず、行政が入る余地がない。

- (委員長) 少年少女ソフトバレーボール大会の課題について教えてほしい。
- (事務局) 運営スタッフを対象にした同大会の講習会において、当初、参加者はルールが分からない状態だったが、講習会を2～3回受講するうちに慣れてきて、当日はスムーズに運営できた。運営にあたるスタッフが20人で少ないので、休憩時間がなく、また、問題等が起きると迅速な対応が難しかった。
- 負けたチームが審判をするという方法は、初心者やルールが分からない方もいるので、問題かもしれない。今年の運営はスムーズだったが、スポーツ推進委員は任期があり、来年度メンバーが変わるので、どれだけ今年のこと引き継げるか、そうしたことも課題だと考えている。
- (委員長) 中学生等は審判の補助ができるのではないかな。
- (事務局) バレー部に所属している高校1年生1名に審判をお願いした。
- (委員) 東京オリンピックの年に、バレーボールがとても流行した。保護者でバレーボールをしている方に協力が得られないか。
- (事務局) スポーツ推進員が地区で保護者にも声をかけているが、長時間のため、協力が得づらいようだ。
- (委員長) 少年少女ソフトバレーボール大会は子どもに人気があるのか。
- (事務局) 子どもには人気がある。地区によっては、ソフトバレーボール大会、体育祭、継走大会のどれかに必ず出るよう、要請している。そのうち、ソフトバレーボール大会が一番人気のようだ。走る競技と異なり、練習すると上達するので、慣れると楽しいようだ。
- (委員長) スポーツを楽しむ土壌を作るのが私たちの仕事である。
- (委員) 会場について、女子は体育館と運動場、男子は体育館のみである。
- (事務局) 1日目は運動場で開会式をやったため、会場が運動場と体育館となった。
- (委員) 練習場所の確保が難しい状況は改善されたか。
- (委員) 今までは、地区が施設をいくつか予約していたが、各地区使う施設を一つに絞ってもらった。また、希望が重複した場合には、地区同士が話し合い、その結果を地区の希望として、町に提出してもらった。
- (委員) 大人のおはなし会は、どのような方が参加するのか。また、内容について教えてほしい。
- (事務局) 大人のおはなし会は、町と「おはなしを語る会」の共催で、演者が昔話等を5～6個話す。参加者については、「おはなしを語る会」の友達や去年の参加者、図書館利用者がポスターを見て参加した等である。
- (委員) 高齢者の方の参加が多ければ、地区持ち回りでやれば人気が出るのではないかな。
- (事務局) 図書館で開催している、通常のおはなし会事業と参加者が重なる。60歳以上の方も何人かいた。地区からおはなし会に要請をすれば、行くことが可能である。
- (委員) 3市2町公立図書館連絡会議はどのような内容か。
- (事務局) 3市2町でデータ等を持ち寄って課題について情報交換をする会議である。各館とも、図書館の利用者が減っていることに課題を感じている。子ども向け事

業を行い、集客を図る、人口減少の影響もある、利用者の減少をすぐ止める方法はないという話が出た。

(委員) 館野鴻さんの缶バッジとはどのようなものか。

(事務局) 館野鴻氏は、虫の細密画を描いている作家であり、絵本原画展と付随した企画で、缶バッジを作った。同氏が持ってきた標本から、子どもが描きたいものを選び、描いた絵をコピーしたものを缶バッジにした。参加した子どもには大変好評だった。

(委員) プチロボ競争二宮大会について、成績上位者は県大会へ出場とのことだが、結果はどうだったか。

(事務局) 結果の発表はまだされていない。成績上位3名が県大会へ出場する。

(委員) かながわアスリートネットワーク協同事業について教えてほしい。

(事務局) 県内で10個の事業ができる。中学校に案内し、競技について、第1～3希望を聞くアンケートを行っている。学校からの希望と、100人以上の指導経験者の登録名簿とを併せて考える。また、中学校にある部活の中から選ぶようにしている。

今年度は学校から卓球の希望があった。その前はバスケットボール、バレーボールを行った。

(2) 社会教育関係団体の補助金について

※事務局より資料に基づいて説明。

(委員長) 収入には補助金も入っているのか。収入、支出は町の予算か。

(事務局) そうである。補助金の他、会費等、団体に入ってくるお金が収入となる。町の予算ではなく、団体としての収入と支出である。

(委員) 27年度は予算案なので収入と支出が同じなのか。

(事務局) そうである。

(教育長) 財政難で毎年、町民税の4%減が続いている。補助金に限らず、27年度と同様に28年度も予算が確保できるとは限らない。

(委員) 文化団体連盟について、会費として1人につき100円を徴収している。今後、町の補助金が減ることになれば、会費を200円に値上げすることも考えている。

(委員長) 会員は減っているのか。

(委員) 毎年減っている。

(委員) 二宮高校相模人形芝居も、この中に含まれているのか。

(事務局) 社会教育関係団体補助金についての資料なので、この表からは除いている。

(委員) 二宮高校相模人形芝居、文化振興補助金については予算が別なのか。

(事務局) 生涯学習課の予算である。

(委員長) 社会教育関係団体補助金について了承したということで良いか。

(全委員) 了承

(3) 平成27年度放課後子ども教室事業報告(6月～9月実施分)

※事務局より資料に基づいて説明。

(委員) 昔の「こっくりさん」のような「チャーリーゲーム」という遊びが小学生の間で流行しているようだ。鉛筆が倒れた方向によって呪われるという設定で、呪われないように角に向かって走るという遊びである。子どもの遊びを大人が把握していない場合があるので、あまりにも子どもの主体に任せると、怪我をするおそれがある。子どもの遊びを知らないといけないと思った。子どもを主体的に遊ばせるということについて、どこまで許すか。

(委員) 宿題や本を読むことは、放課後の一つの過ごし方であるので、やらせてあげたほうが良い。

(委員) 活動が乱暴になるのは、本音が出てきたということ。洋上研修でも、ゲームをやって、本音を出させる。ただ怪我をする心配がある。山西小学校の見学に行った際、ステージは使用禁止だった。ステージでは、お絵かきや折り紙をやるのはどうか。そうすればフロアが思い切り使える。少しの怪我は仕方ないと思うが、主体的な遊びは大人が多くないと難しいのではないか。宿題や本を読むことは賛成である。

(教育長) 地区長連絡協議会で放課後子ども教室について説明し、サポーターが増えたら、毎日ではなくても外遊びができると良い。サポーターがどうしたら増えるか、今後話し合いで考えていけたらと思う。

(委員長) 来年度の提案についてどうか。

(委員) サポーターの人数にもよるが、今はこの程度が良いのではないか。

(教育長) いずれは、国が進めている「チーム学校」という制度に移行すると思う。地域の人に若干のお金を出し、支援員として、学校運営を手伝ってもらう制度である。支援員が放課後の子どもを遊ばせたり、宿題を一緒にやったり、校庭を整備したり、というように学校の運営に携わる。新制度に移行するまでは、放課後子ども教室を続けたい。

(委員) サポーターについては、テーマ研究会において時間をかけて話し合う。地域の人が必要なので、日程ごとのサポーター募集はどうか。日程ごとに募集をしたら、単発の参加が可能ではないか。

(委員) 放課後子ども教室は、安全安心な居場所が趣旨だが、一方でそれで良いのか、という疑問をもつ。転ばぬ先の杖で、転び方を知らない子どもがいる。そうした子どもは、転んだら起き上がれない。大人の目が届く環境が子どもの成長にとって本当に良いのか。

(委員長) テーマ研究会でさらに議論を深めたいと思う。

(4) その他

- ・委員出張関係

 - ※委員より報告

- ・平成27年第3回議会定例会（教育関係審議状況）について
- ・平成27年9月議会定例会決算審査特別委員会審議状況について
- ・平成28年度予算編成について
- ・平成28年度重点施策（事業）について

 - ※事務局より資料に基づいて説明。

(委員) 予算や重点施策について、町の考えが分かる資料だった。今後もこうした資料は提供してほしい。ただ、最初に聞いた方が、内容を踏まえた上で協議できるので、より効果的ではないか。

また、教育委員と社会教育委員は同じような問題について話し合っていると思うので連携がとれたら良いのではないか。

5. 閉会